

園田学園女子大学×神戸大学 歴史・文化シンポジウム

「災害復興と地域歴史遺産」



日時：2024年2月25日13時～

場所：園田学園女子大学



主催：園田学園女子大学

共催：神戸大学地域連携推進本部

後援：兵庫県教育委員会・尼崎市

2025年は阪神・淡路大震災発生から30年の節目の年となります。阪神・淡路大震災や東日本大震災などの被災地における復興のなかで、地域にある歴史遺産がどのように活用され、次の世代に継承されてきたのか。そこで、例年実施しているCOC+「歴史文化領域」シンポジウムの今年のテーマは「災害復興と地域歴史遺産」となりました。



奥村弘・神戸大学副学長の挨拶の後、橋本裕之氏（坐摩神社権禰宜、國學院大學 客員教授）からは、「無形文化財／無形文化遺産を動態保存するー社会実装としての阪神虎舞ー」と題して、東日本大震災で被災した岩手県の民俗芸能「虎舞（とらまい）」を関西に移し保存する活動についての報告がありました。地域連携推進本部の松下正和からは、阪神・淡路大震災を契機に設立された歴史資料ネットワークによる「風水害による被災歴史資料の保全と活用について」と題して、2004年台風23号・2009年台風

9号被災地での地元郷土史団体との活動について報告を行いました。

講演に先立ち、神戸市長田区にあるNPO法人DANCE BOXに拠点を置く芸能集団「阪神虎舞」による実演もあり20名近くの参加者がありました。ディスカッションでは災害復興における地域歴史遺産の意義について有形・無形双方の文化財の立場から議論が交わされました。来年度は阪神・淡路大震災をテーマに開催する予定です。（地域連携推進本部 特命准教授 松下 正和）